



東北大に災害科学研

地震の仕組み解明目指す

から参加
分野家
多専門

東北大は、文系、理系の枠組みをつくるのが狙いを問わず多分野の専門家が連携して、総合的な防災研究を目指す。「災害科学国際研究所」を設立、東日本大震災級の巨大地震のメカニズム解明に乗り出した。

被災地にある総合大学として地震予知などで被害を軽減できなかった反省を踏まえ、災害への対処を見直し、新たな防災

従来の災害研究は地震学など理科系の研究者が中心だったが、研究所では文系分野も含めた約80

人の研究者が集結。地震学知を支えるのは文献などの歴史記録との考えに基づき、歴史学の研究者も参加している。

研究対象は「津波工学」「地震災害」「災害文化」など計36分野。災害発生から緊急対応、復興、将来の備えを一連のサイクルととらえ、各段階で分析する。被災地支援の交通システムや情報インフラの確立、復興計画での市民による合意形成なども研究対象にした。

同研究所の平川新所長「(6)『歴史学』は『災害』への備えは専門分野の研究だけではカバーできないので、総合研究を強化に押し進めたい」としており、将来は海外の研究機関とも連携する計画だ。

被災地にある総合大学として地震予知などで被害を軽減できなかった反省を踏まえ、災害への対処を見直し、新たな防災

研究対象は「津波工学」「地震災害」「災害文化」など計36分野。災害発生から緊急対応、復興、将来の備えを一連のサイクルととらえ、各段階で分析する。被災地支援の交通システムや情報インフラの確立、復興計画での市民による合意形成なども研究対象にした。

同研究所の平川新所長「(6)『歴史学』は『災害』への備えは専門分野の研究だけではカバーできないので、総合研究を強化に押し進めたい」としており、将来は海外の研究機関とも連携する計画だ。

同研究所の平川新所長「(6)『歴史学』は『災害』への備えは専門分野の研究だけではカバーできないので、総合研究を強化に押し進めたい」としており、将来は海外の研究機関とも連携する計画だ。

同研究所の平川新所長「(6)『歴史学』は『災害』への備えは専門分野の研究だけではカバーできないので、総合研究を強化に押し進めたい」としており、将来は海外の研究機関とも連携する計画だ。